

2015年度年賀寄附金配分事業の事例紹介

1. 活動・一般プログラム

事例 1-1	特定非営利活動法人 女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ（兵庫県神戸市）
事業名	DV被害女性と子どもたちの生活再建を支援するための居場所運営事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	238万円

【事業内容】

DV被害を経験した女性と子ども達に対して、就労、見守り、仲間づくりなどを行うための居場所を運営する事業。

平日午前中は、衣類の整理やアイロン掛けなどの軽作業を行い、就労への意欲を高めるとともに、午後は学びと気づき・仲間づくりの場として、ミニ講座や語り合いの時間を設定。土日には、シングルマザーの会や親子で参加できる造形教室などを実施し、夕方からは週2回、子ども達への無料学習支援を行った。

<支援内容と参加人数>

- ・DV被害を経験した女性や子どもたちが、孤立した生活から脱出して仕事や社会活動につながるための居場所運営 689人
- ・特に困難を抱える女性たちの相談事業 44人
- ・自助グループへの参加 56人
- ・QOL（生活の質）を向上させるような講座、学習会 2回/月 のべ149人
- ・シングルマザーの子どもたちへの学習支援 2回/週 のべ766人
- ・ボランティア参加人数 学生ボランティア168人、社会人ボランティア398人

<シングルマザー・子供たちの声>

- ・DV被害を受けてシェルターに入居。知らない土地から神戸に来ました。地理も分からないし、知っている人も誰もいない土地で暮らすのはとても不安でしたが、この場所があるおかげでひとりぼっちではないことを実感しました。今も継続して参加しています。（シングルマザー）
- ・最初のころは全然慣れず、学力も低くて苦労しましたが段々分かるようになって、教えてくれた先生に感謝しています。（中学生）

【参考写真】



事例 1-2	特定非営利活動法人 北海道エコビレッジ推進プロジェクト（北海道札幌市）
事業名	地球環境保全と持続可能な暮らしを学ぶための体験型セミナー事業
事業種別	地球環境の保全を図るために行う事業
配分額	394 万円

【事業内容】

持続可能な暮らしと社会をテーマに、エコロジカルな住まいの技術、再生エネルギー、カーボン・オフセット活動等の地球環境保全の実践的解決法を学び、普及発展させる循環型暮らしのセミナーを開催。学生枠や地域枠を設けることで、学生や地域の農家の方々が中心となって自分たちの樹林地を管理することができたほか、バイオマスを使った薪ボイラーの導入を検討した。

＜セミナー内容＞

- ・開催回数：全 5 回（のべ参加人数 84 人）
- ・4 月から 11 月の毎月 1 泊 2 日～4 泊 5 日で開催、共同生活や農的暮らしを通じて、暮らしの場面に応用できる様々な循環型のテクノロジーを実践的に学んだ。
- ・農作業体験、気候変動とカーボン・オフセットに関する講習などを受け、日々の暮らしで発生する CO₂ 量の算定や環境負荷の低減方法についてのディスカッション、コンポストトイレやオフグリッド生活や太陽光パネルの設置方法などを学び、環境保全活動への理解を深めることができた。

＜参加者の声＞

- ・講義と実習を受けて、「どんな森にしたいか？」という考え方の共有と、森の中での実践的な知識なしには、森のデザインは成り立たないということを痛感した。また、一見無価値のように見える植物も、利用方法についての知識があれば加工することも可能であるし、動物たちにとって大切な住処であるということも新鮮だった。

【参考写真】



2. 活動・チャレンジプログラム

事例 2	公益社団法人 銀鈴会（東京都港区）
事業名	喉頭摘出者の声を取り戻すためのサポート事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	50 万円

【事業内容】

喉頭摘出者が声を取り戻すために、食道発声法・EL 発声法・シャント発声法等の手段があることを紹介し、訓練内容、実施場所、実施日時などについて案内するためのパンフレット作成事業を実施。

銀鈴会では元々、週 3 回程度、各発声法の指導教室を開催しており、多くの仲間と共に訓練することで、手術後の後遺症ケアを共有し、引きこもりがちな喉摘者の社会参画の一助となる活動を行っている。

<パンフレットの作成数等>

- ・カラーA4三つ折りパンフレットを 20,000 部作成し、53 の病院や看護学校を始めとし、会員、関係者及び同様の活動を行う団体等に配布。
- ・いくつかの病院からは入院患者に対する定期的な説明会の依頼を受けたほか、喉摘手術患者の紹介を約束された病院もあり、新入会員数は 93 名（2014 年度）から 102 名（2015 年度）に増加した。

<発声教室の参加者のコメント>

- ・声帯が無くなってしまった一生声を出せないと思っていたので、入院中看護師さんから頂いたパンフレットを見て、退院してすぐに銀鈴会に来て 100 名を超える人たちが笑いながら練習している教室を見て元気をもらった。自分も早くみんなと同じようにしゃべれるようになりたい。

【参考写真】



3. 施設改修

事例 3-1	社会福祉法人 虹の会（広島県福山市）
事業名	グループホームで生活する重度障がい者等の安心安全を確保する為の避難用滑り台整備事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	265 万円

【事業内容】

災害等が発生した場合、自力避難が困難な重度障がい者について、これまで一人ずつ背負って階段で移動する必要があったが、避難滑り台を設置することで補助の負担が軽減し、一部補助をするだけで迅速に避難できるようになった。

入居者だけでなく、グループホームで働く職員や、重度障がいを持つ入居者の家族からも、「安全性が高まって不安が解消された」などの声を受け、入所者も 7 名（2014 年度）から 9 名（2015 年度）に增加了。

【参考写真】



事例 3-2	社会福祉法人 日本聴導犬協会（長野県上伊那郡宮田村）
事業名	聴導犬、介助犬用屋外歩行訓練施設（トレーニング・ロード）舗装を車椅子対応にするための改修事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	450 万円

【事業内容】

聴導犬・介助犬の貸与を希望する方向けの屋外歩行訓練施設の整備事業を実施。クッション性があり、耐候性・透水性に優れたウレタンを使用することで、安全性の確保、負担軽減、全天候型での訓練が可能となった。また、車椅子が動かしやすく、リードを落とした場合を想定した呼び戻し訓練なども実施しやすくなった。

2015 年度は、聴導犬貸与及び認定試験に 2 名が合格し、介助犬貸与及び認定試験に 1 名が合格。さらに、6 名が聴導犬・介助犬の認定に向けて訓練を行っている。

【参考写真】



4. 機器購入

事例 4-1	特定非営利活動法人 iCare ほっかいどう（北海道札幌市）
事業名	ALS等の患者のコミュニケーションを支援するための意志伝達支援機器と周辺機器整備事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	183 万円

【事業内容】

ALS（筋萎縮性側索硬化症）などにより発話でのコミュニケーションが困難となった患者に対し、コミュニケーション支援機器の紹介、貸出し、操作支援等を実施したほか、他団体の医療関係者向け研修会に参加し、機器の貸出しなどを行った。また、札幌市の地下歩道で2日間にわたる「機器展示・相談会」を行い、77名の立ち寄り、10件の相談を受け付けた。

- ・ 支援患者数：118名、機器のデモ：約60回、機器の貸出し：約60回
- ・ 研修会等での機器展示：17回

【参考写真】



事例 4-2	特定非営利活動法人 工房・虹と夢（北海道函館市）
事業名	障がい者就労支援事業所のリサイクルせっけん製造事業拡張のためのせっけん製造機器の増備事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	100 万円

【事業内容】

就労継続支援B型施設でのリサイクルせっけん製造事業を拡張するため、製造機器を更改した。これまでには、古く大きな釜を使用して製造していたため、操作性が悪く危険も伴っていたが、機器のコンパクト化が図れたことや、これまでより多くの作業工程が機械化されたことにより、安全性の向上、作業効率の改善や作業負担が軽減された。

- ・ せっけん製造量：30kg/月（H26年度）→60kg/月（H27年度）
- ・ 売上：約11,000円／月（機器導入前）→約18,000円／月（機器導入後）

【参考写真】



5. 車両購入

事例 5-1	社会福祉法人 あゆみ学園（愛媛県松山市）
事業名	就労継続支援B型事業の農業生産を拡大するための農業用トラクターの新規導入事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	84 万円

【事業内容】

就労継続支援 B 型施設の農業部門で、新規に借り上げることができた農地（休耕地）について、従来の小さな管理機では深耕が難しいため、農作業の効率化、作付面積の拡大、生産量の増加を行うためにトラクターを導入した。

- ・野菜類の売上げ：323,680 円（2014 年度）→402,895 円（2015 年度）
- ・新規耕作面積：13.38 アール

【参考写真】



事例 5-2	社会福祉法人 養父市社会福祉協議会（兵庫県養父市）
事業名	訪問入浴サービス事業所の訪問入浴車の更改事業
事業種別	社会福祉の増進を目的とする事業
配分額	220 万円

【事業内容】

寝たきり等により、自宅の浴槽で入浴できない高齢者等の自宅を訪問し、入浴サービスを提供するための入浴者更改事業。更改前は、老朽化によるボイラーの故障や水漏れが頻発していたが、安全性や利便性が向上し、利用者及び職員の負担も軽減された。

- ・1回あたりの作業時間 1 時間 15 分→1 時間程度に短縮、一週間当たりの利用者数 2~3 名、利用者数のべ 45 名（2016 年 4 月～9 月）

【参考写真】



6. 東日本大震災の被災者救助・予防（復興）

事例 6	特定非営利活動法人 冒険あそび場 -せんだい・みやぎネットワーク（宮城県仙台市）
事業名	津波被害の大きかった地域の子どもの心のケアとコミュニティの再生～移動型遊び場事業～
事業種別	東日本大震災の被災者救助・予防（復興）
配分額	270 万円

【事業内容】

宮城県仙台市の津波被害が大きかった地区を主な対象にして、遊び道具を積んだ車両（プレーカー）が巡回する遊び場開催事業を実施。遊び場に集まる子どもの心のケアと共に、子どもを見守る大人の輪を広げ、遊び場を通して地域力を高めることも目的とした。

- ①購入した車両のデザインと愛称を地元子どもたちから募集。
→個性的な虫や花の絵が描かれている。「あそブースター」と命名。
- ②アーティストに車のペイントを依頼するとともに、子どもたちも参加できるワークショップを実施し、みんなでペイントを作りあげた。
→ワークショップ参加者：子ども 22 人、大人 16 人
- ③お披露目イベントでは、遊び場に集う親子が主体となり、居場所づくりの企画が開催された。参加者：子ども 220 人、大人 90 人
- ④プレーカーでの遊び場巡回。
→16 回／月 1 回あたり 60 人利用

仮設から震災復興住宅などへと生活が変わっても、「自分たちが作った車」が遊び場を提供してくれることで、新しい土地での居場所を確保でき、日常のストレスを軽減することが出来た。

<遊び場を利用する親子のコメント>

- ・やり始めたら止まらない、という感じで子どもが戯れているのを見て、思い切り遊ぶのはこういうことなのね、と納得。
- ・ペイントの制作過程を見ることが出来てよかったです。
- ・新しいプレーカーができて、うれしい。

【参考写真】

